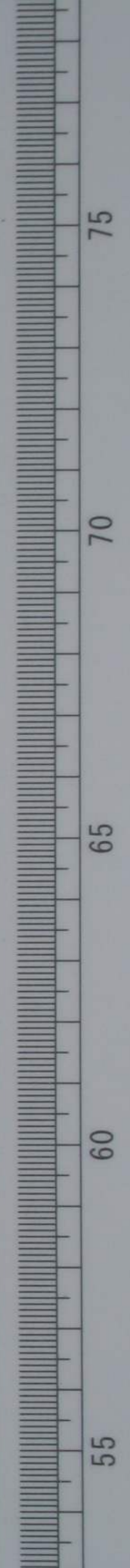
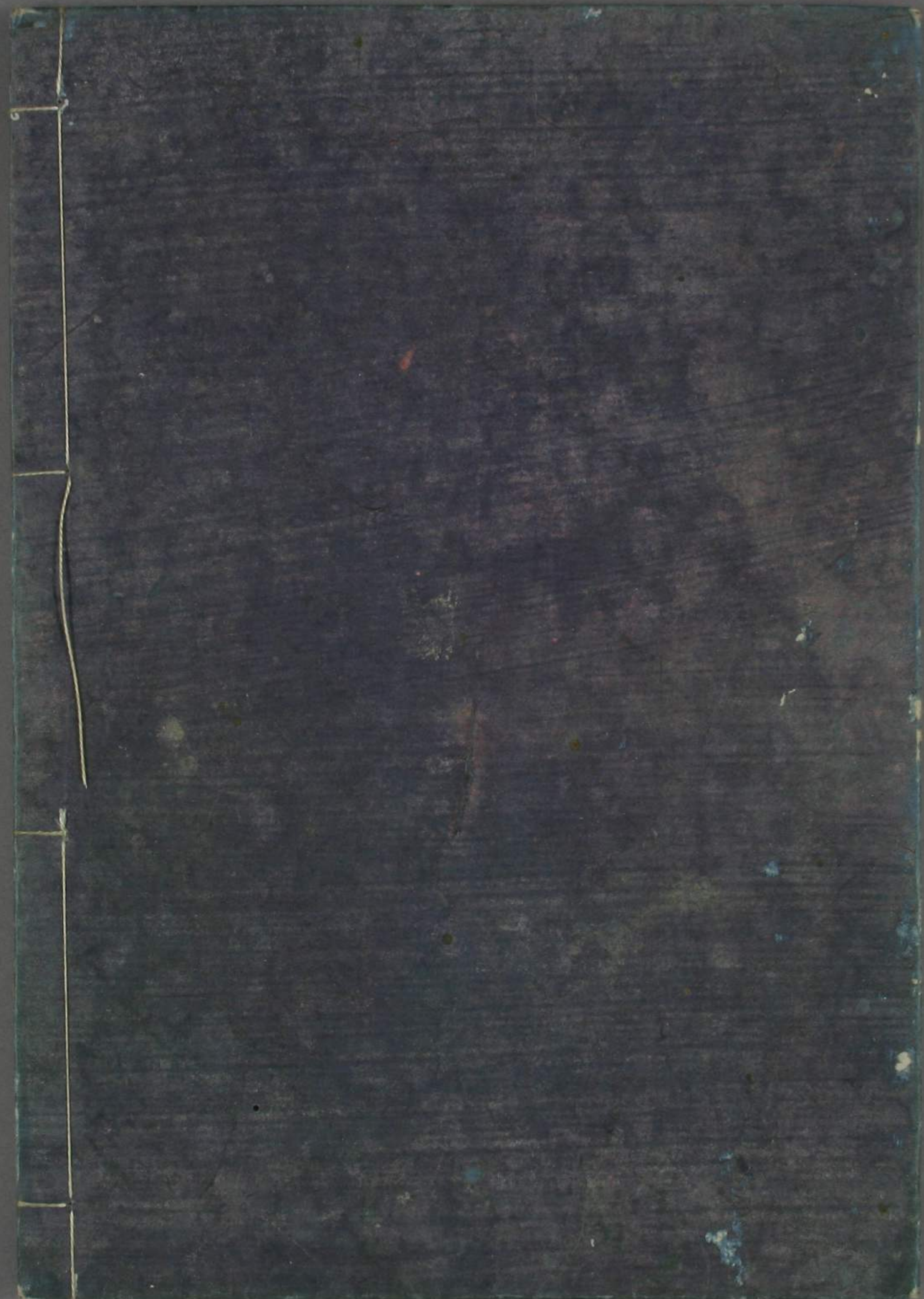


大類全書  
 世界國地誌  
 附錄  
 六







世界國盡附録

地理學の總論

地理學ハ西洋の語にて古より知らひいと云  
 およりとハ地は義をがらひいとハ書といふ  
 義を故に地理學ハ地球上の事と書記し地  
 球の外面を包む空氣の有様まごも説き明ら  
 ふまゝ學問を  
 地理學を三箇条に分ち第一箇条を以てその

ところよりおよびがらひいといふ天文の地學といふ  
 義を此箇条に於てハ地球と一個の遊星と  
 見做し他の遊星と共に太陽の周圍を廻て四時  
 寒暑の變化を起すかどの出づる論を第二箇条  
 としハ一かゝるおよびがらひいといふ自然の地學  
 といふ義を此箇条に於てハ海陸山川の區別  
 草木禽獸の異同物産時候風雨雪霜の模様等と  
 論を第三箇条とすちかゝるおよびがらひいとい  
 ふ人間の地學といふ義を此箇条に於てハ

人種言語の品類風俗政俗の異同文學技藝の巧  
 拙文明開化の前後等と論を

天文の地學

此世界も一個の遊星を遊星とハ圓き物小く  
 空中に浮び日輪の周圍を廻て日の温氣と光と

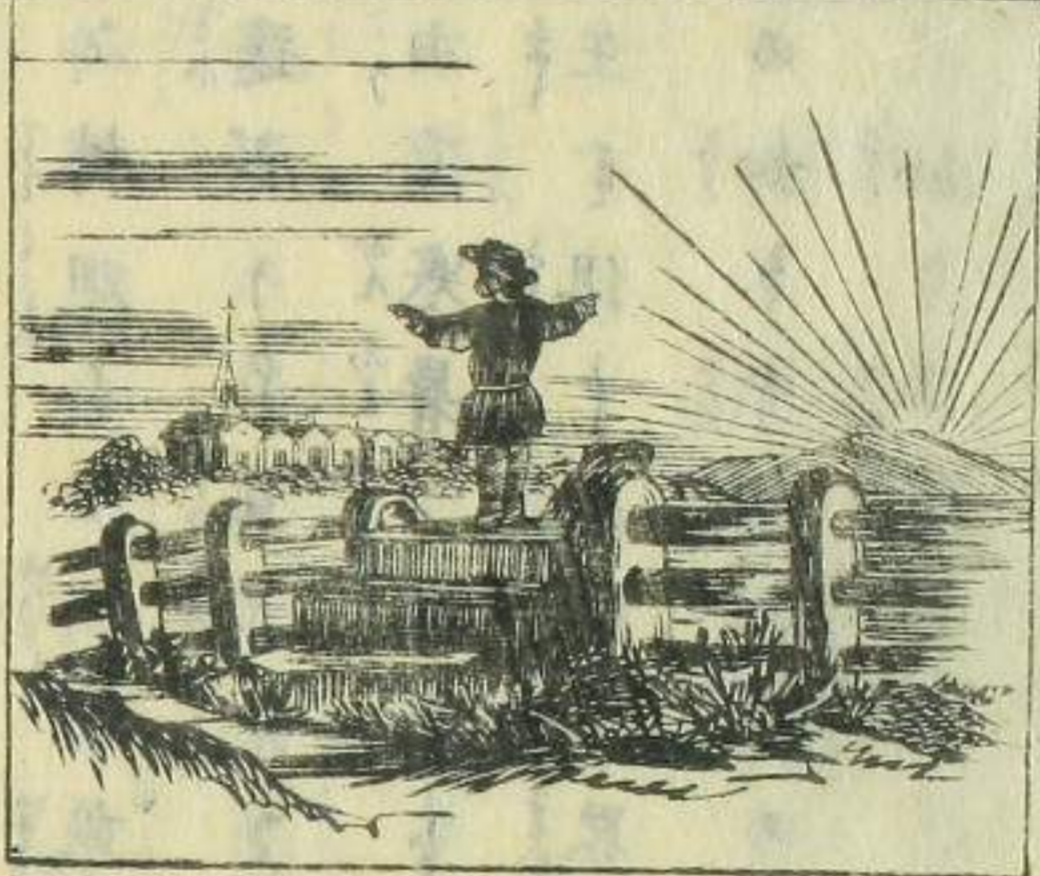


と受る星を此日輪に附屬の  
 遊星數多ゆも大ひなりも  
 のハ唯八個の即ち地球も其  
 内の一ふを地球の圓き證據ハ

船に乗て大洋より陸と眺る始ハ山の頂のミ  
 と見付け次第大陸へ近づくに従ひ麓は低き處  
 も見ろべし又地球の影の月小映ぞりてハ月  
 食と起もその影うからば圓一影圓も色バ其物  
 も圓きと知る也  
 地球の周圓を一萬三千五百五里余の南北と  
 軸にして西より東へ轉バ十二時の間ハ一週と  
 終るみれと一昼夜と即ち地球の自轉を斯  
 く自から轉ぶるハ三百六十五日二ヶ五厘の間

一日輪の周圓と一週して本の處に歸るを  
 一年と即ち地球の公轉を斯く日輪の周圓  
 と轉廻する間ハ或ハみれハ近づく或ハみれハ  
 遠ざかり且其光と真直は受ると斜は受ると  
 由て寒暑一様ならず四季の變化あるがたり小  
 生も但し赤道と界めて四時相反し日本など  
 の如き赤道以北の國の夏ハ何ふをたらや等  
 此如き赤道以南の國の冬ハ何ふをたらや等  
 の篇ハ池鯉の國の冬ハ我夏を記しとるも

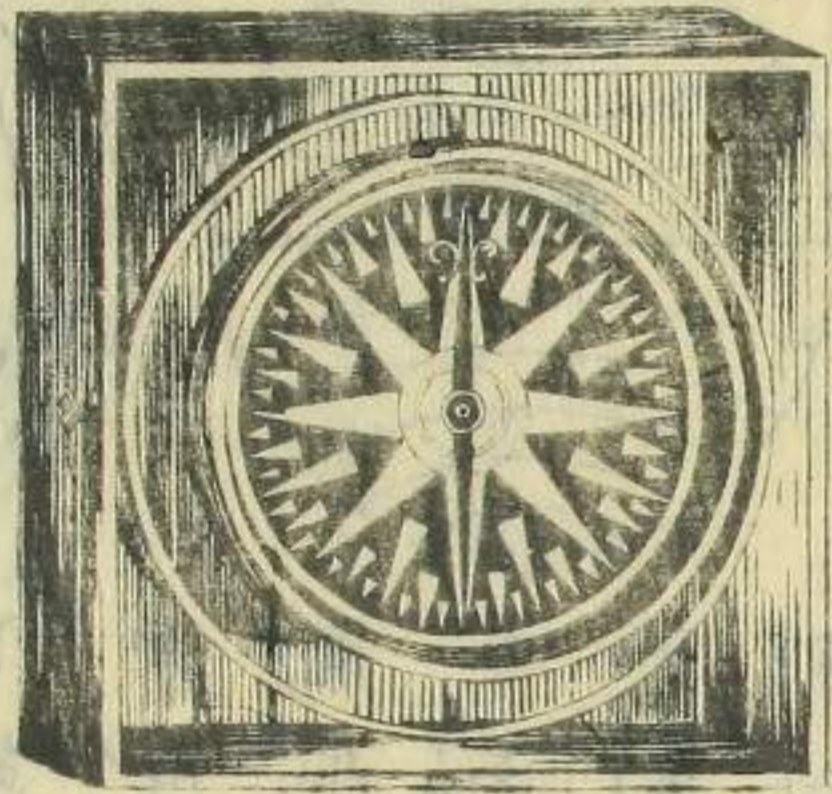
此國ハ赤道の南不在也一夏冬相反をうか



方ハ南をみよの四方角と羅針盤の本点と名  
く羅針盤ハ航海に欠くべからざる道具にて唯

四方ハ東西南北を上の繪  
小一人の子供両手をひろげ  
右左手を日の出る方と指  
よこの方東を左の手ハ日  
の入り方と指よこの方西  
を面の向ふ方ハ北を背  
を面を向ふ方ハ北を背

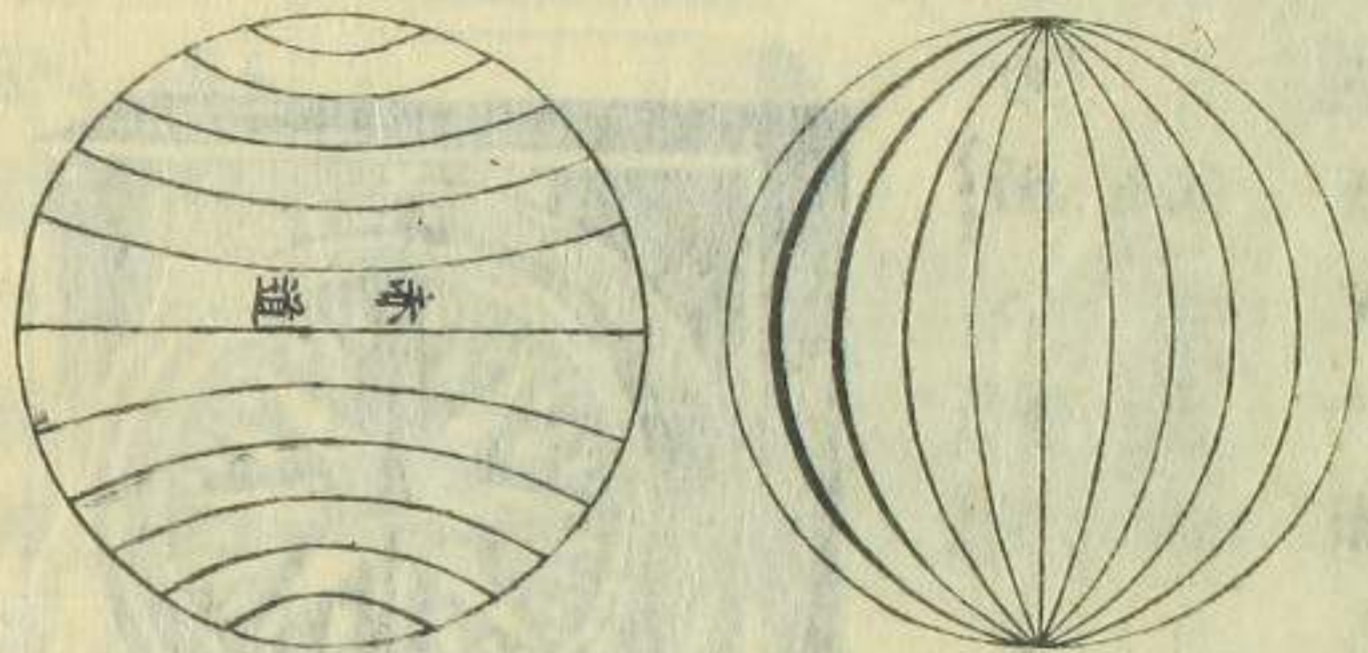
羅針盤の圖



地球の面へ縦横小線と引き南北に通る線と子  
午線と名け東西に通る線と平行線といふ地球  
の状圓きゆ一斯く縦横小引通しとる線の状も

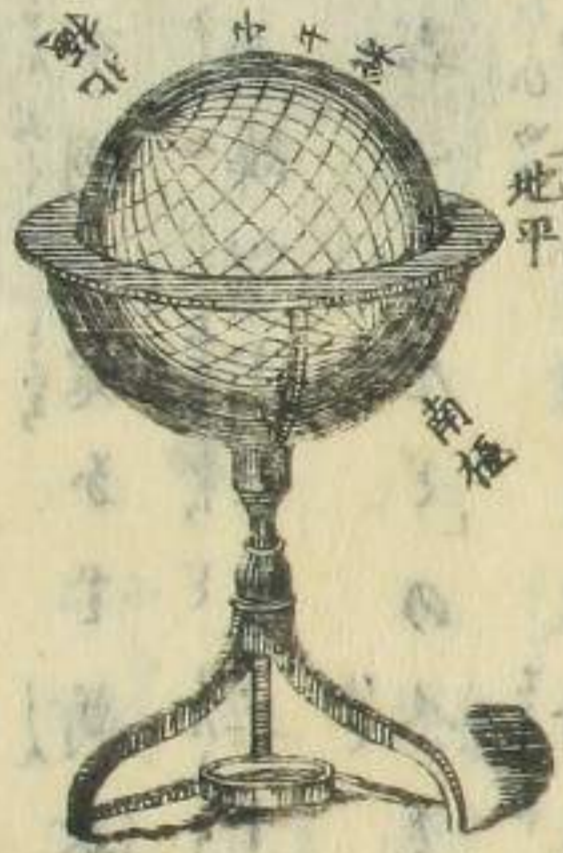
四方のまからを東西  
南北は間と分ち又其  
間と小介して細小こ  
れと盤面を記しその  
方角小従て船の道筋  
と定るものなり

子午線 平行線



圓くして輪の如くみの圓さ  
輪と三百六十度分てあると  
一度と名け東西刻と  
と經度といひ南北刻たる  
と緯度といひ平行線と以て  
南北の緯度と計るは真中  
の赤道と本として勘定と始  
む譬へ地理の圖書中北  
緯三十五度といへば赤道よ

地球儀小  
經度緯度  
と刻きた  
の圖

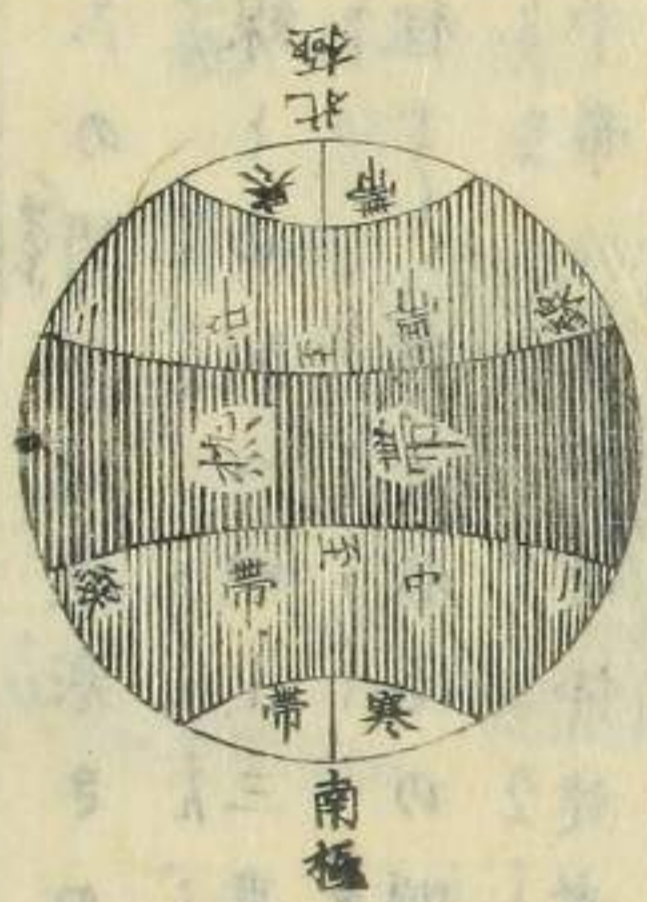


北の方三十五度不當といふ  
又ハ亞米利加のかさねる小やや  
緯の方も出れな同ト子午線ハ  
も勝手次第すもども大抵地理書  
地球儀小の天文臺を  
經度緯度と刻きたの圖  
の天文臺を以て本  
小立てを故に東  
經百四十度とい  
ハ英吉利の天



世界圖説附録

文臺より東の方百四十度不當といふはと  
 て丁度日本國の處を新おいらんと東經百  
 七十七度南緯四十七度三十分不當を故日本  
 篇も新おいらんどの人と英吉利の人とハ足  
 のりりと向合せおいて昼夜相反するとのふと  
 と記せし  
 地球の周圍ハ英の里法にて二萬五千里あり  
 本の里教も是をバ一萬三百五十里余なり故不  
 ふもと三百六十割と一一度ハ二十八里七合



六分四角余は當り但しは赤道の處にて測  
 りしものにて南北の方近よるは次第に短  
 ちを其極に至るは何もなくかゝる理なり  
 赤道より北と南へ二十三度半づゝの處に線と  
 引きぬきと二至線と名けぬの間ハ時候熱し故  
 熱帯と名く又南北の極  
 赤道の方よりぬき  
 二十三度半づゝの處に線  
 と引きぬきと極線と名く

この間ハ時候寒き由一寒帯と名く極線と二至  
線との間ハ四十三度の廣さゆを此の間ハ時候  
程よく春夏秋冬の順序正しき由一中帯と名く  
中帯の人ハ身体達者ふして氣力ゆを文明開化



熱帯諸國の獸類

の極度に至る一帯の唯此  
方角不の諸國の歐羅巴  
北亞米利加の合衆國支那日  
本等皆中帯内ハゆを熱帯  
の地ハ草木よく生長し獅

駝が鳥



寒帯の獸類



子犀象豹虎蝮蛇等多し又或  
ハ駝馬とぞハ大ハ  
鳥ハ中帯寒帯ハ絶て  
きものなり寒帯の地ハ禽  
獸草木少し人の身体小短  
し愚を獸類ハ白熊馴鹿  
等ハ都て寒地ハ生ぶ獸  
ハ皮厚くして毛深し天然  
寒氣と防ぐゆを

自然の地學



此圖を見れば小遠景ハ大洋ノ一河  
ノ小島ハ右手  
ノ小島ハ左手  
ノ小島ハ中央  
ノ小島ハ左  
ノ小島ハ右  
ノ小島ハ中央  
ノ小島ハ左  
ノ小島ハ右  
ノ小島ハ中央  
ノ小島ハ左  
ノ小島ハ右

本篇小もいへる如く地球の面三分ハ海にして  
一分ハ陸地を以て陸地を三小カチ亞細亞阿非  
利加歐羅巴と東の半球と一或ハ旧世界といふ  
南北亞米利加と西の半球と一或ハ新世界とい  
ふ大洋洲も亦別々一世界を以て合せて三世界  
なり或を以て三大地と名く西洋の語ハ大  
ちねんとていふ廣く續き一土地といふ義なり  
鳴とハ四方ノ海ヨリ土地ヲ譬ハ巴英吉利麻  
田槽輕久場等の如き皆鳴國なり

半嶋とハ三方水ホーて一方の大地は續きた  
るといふ日本ホーていハ肥前の嶋原の如き也

嶋半地狭の圖



地峽とハ大洲と大洲と續  
く是れ又ハ半嶋と大洲と  
續く是の狭き土地といふ  
譬ハ亞細亞洲と阿非利  
加洲と續く是れ末洲の地  
峽を南北亞米利加之界

小巴奈馬の地峽の  
岬とハ海ホ突出したる陸地といふ阿非利加之  
南の端ホ喜望峯の南亞米利加之端ホ是れ  
ありふらん  
土地の高さの山といふ但一地理學ホ於て  
高さ千尺以上あるものと山と唱へ千尺以下の  
ものと岡といふ山の高さといふ幾尺と計るハ海面  
より勘定しよものか世界中の高山ハ印度  
のひるもや山と第一と其高さ三萬尺に近

即ち英吉利の里法にて五里余の高さをさされども  
比較せしむれば地球の中徑千六百



分の一を譬へばさ  
一丈六尺の玉  
小五分さうをの贅  
さうが如し地球の大  
すも思ひ知るべ

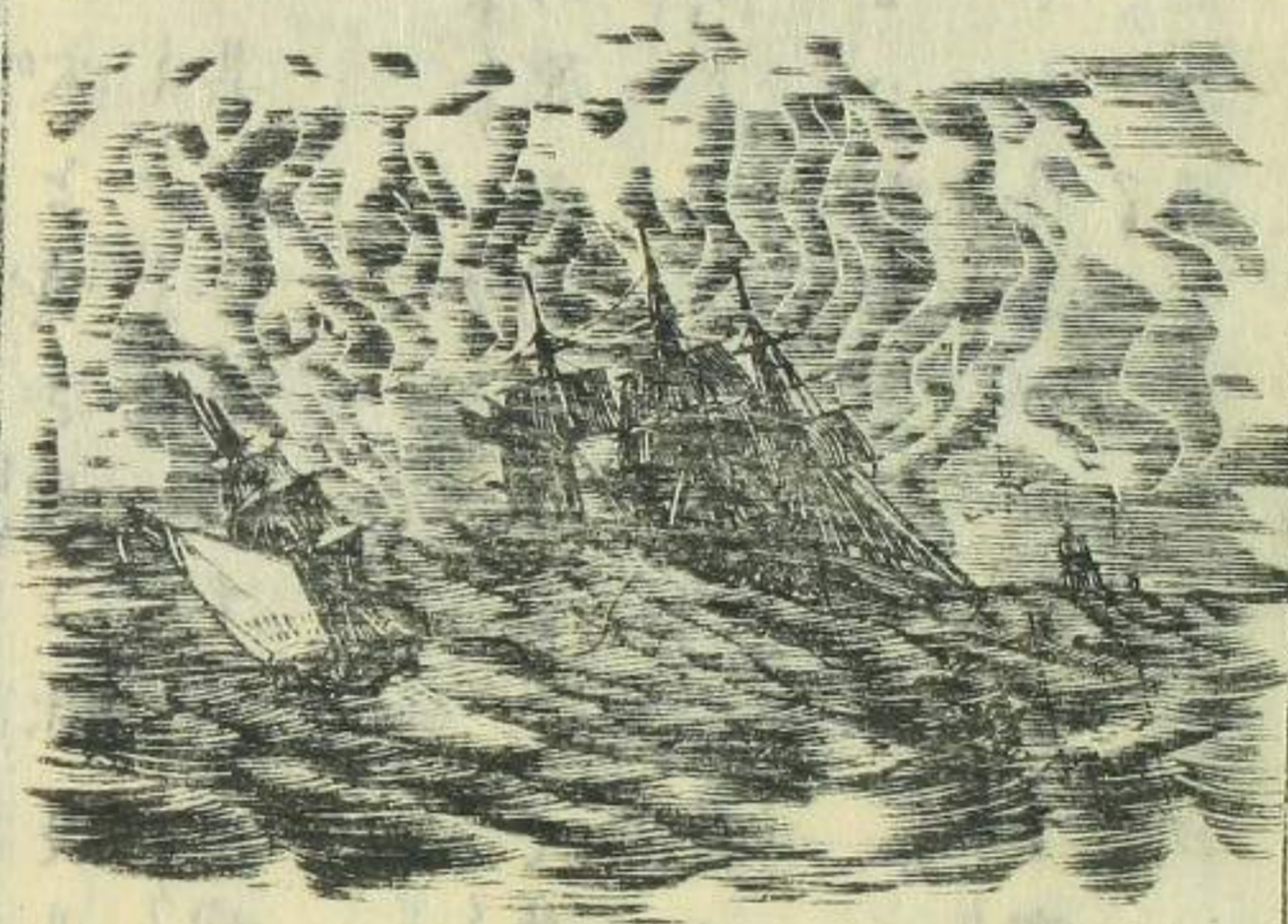
火山と噴き烟と出まものと火山といふ世  
界中小其數三百の内の二百ハ嶋國の山

廣き砂原ハ雨降らざりて草木生長せざりもの  
と砂漠といふ阿非利加荒火野の砂漠あり

大洋と外海のみとあり實ハ世界中の海は其  
水の互に通ぜざりて東の海と西の海と

かて五大洋とせしむるを即ち太平洋阿多羅洋印度

大洋



洋北極洋南極洋  
色を重し本篇に用ひ  
ハ唯て人の見りし  
計と用ひ  
大洋の深さと詮索  
せしりをもいふ  
大確りを知らば  
その底小島あり

ハ陸小山阪の如くその最も深き處も陸の  
山の最も高きもの不等しかるまといふ  
海とハ大洋とを狭くして其周囲の陸地の近き  
そのといふ地中海黒海の如きあり



湖水ハ淡水の集まり  
そののちをその源  
河を流る或ハ湖  
の底より湧出するもの  
も河を其出口ハ又河

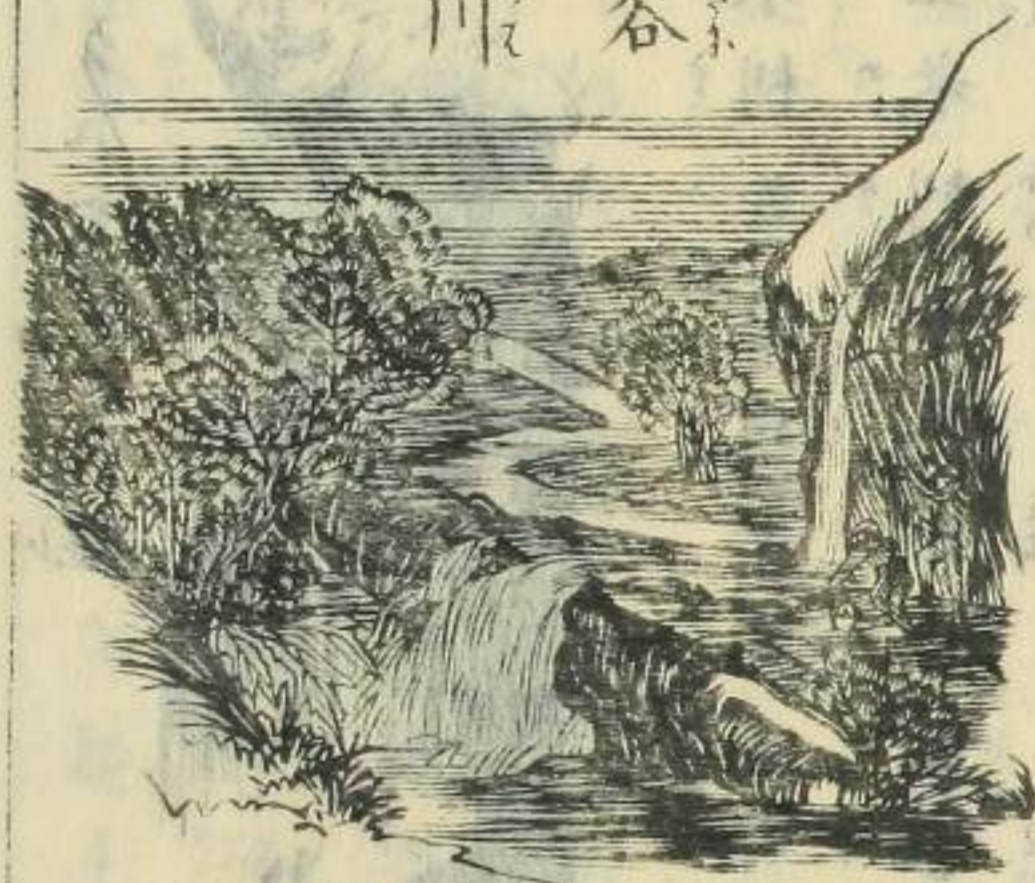
北亞米利加  
の合衆國と  
金田との界  
まろの湖水



一山灣又ハ辨輕のハ海  
船の碇泊を多に要と港といふ

不出て海へ入る世界  
第一の湖水ハ北亞米  
利加州の西  
入海ハ三方ハ陸地  
一一方のハ外海ハ  
續くものといふ或は  
大島と灣といふめき  
これナリ其秋くして

川谷



瀬戸とハ海と海と續く狭き處といふおぶらる  
たの瀬戸ハ阿多羅海と地中海と續く處まろ  
下の關の瀬戸も周防洋と玄界洋との界目小

陸地の低き處は流る水  
と河といふ河の源ハ或ハ  
泉より出或ハ湖水より出  
づ雨雪の水山中ハ溜  
その穴より流出る谷川

ミシシッピ川の瀧



米利加の「ミシシッピ」ハ世界第一の大河にして北  
 亞米利加の「ミシシッピ」ハ世界第一の長河なり  
 河の流る路は俄に低き處へ落るものと瀧  
 といふ合衆國のありよる洲は「ミシシッピ」がらと  
 いふ瀧の高さは百六十尺世界中の名所を

とを次第に集  
 て河となり又合  
 大河とあり遂に  
 海へ入りたり南亞

人間の地理

天然の地理ハ萬代不易にして開闢の始も今日  
 も大ひま異なりあとかいさきども地球の面が  
 生るる人の了簡と以て其地面とから其界と  
 定て各政府と立るハ人民共よその為筋と思  
 たりものあり是即ち人間の地理ハ區別と生  
 世界中小國々の介する所以あり其の區別ハ固  
 人の作せしものなれば万代不易ありと得  
 競争小由て師と起るものあり野心と抱て國と



盗むものゆゑ威力を以て土地を押し領するもの  
 あり是即ち諸國不盛衰興敗の變りる所以なるを  
 斯く人の意を以て勝手次第不定りたる國の界  
 必ざりし海陸山川の地理と目的とせざ或ハ  
 唯双方の人を約束しし條約の書面不由ての  
 其界と守らるるも何れ然もとも事實の便利  
 と謀り暴人の襲と防ぐらるるハ大洋又ハ山川  
 の筋を據り界と立ちと良しと  
 木篇の始りもハ一ノ如く世界中の人種と五小

かちその容貌知愚同トからども巴非の國々の  
 風俗生産の道も亦一様からど  
 ① 文明開化とハ都會と開き市町を立て住居の  
 處と定め安樂の家小居を事々物々ハ順序と違  
 へど心と勞し身と役し禮と重んト義と貴ぶも  
 のといふ  
 ② 蠻野とハ住居と定めど水草と逐て處と移  
 或ハ牛羊と飼ひ或ハ鳥獸と捕て渡世とるもの  
 といふ

右二様のもものと尚又細き區別をうらへ左の  
 如く  
 第一と渾沌といふ蠻野の内おも最も下等の  
 民おもて鳥獸の仲間と外うらへと甚く遠く  
 を阿非利加の内地新ざんかゆふをうらへやな  
 どの土人みせたりてしもかく廣き野原を徘徊  
 細いて獵澳と業とし或ハ虫と喰ひ或ハ野山ふ  
 生ドとる木の實草の根と食物とし其人の性質  
 慈悲の心なくして互ハ相争ひ物事不迷ひ易く

して人の道と知らざる甚くざりきハ人の肉を喰  
 ふものゆゑ其住居ハ常ハ家かハ或ハ粗末なる  
 小屋楸と作し一村の趣と成をみともゆゑども  
 便利次第おもて忽ち散トその痕跡も見ず農業を  
 勤免ごまば五穀と喰らば衣服も甚く見苦し  
 くし大抵賸体の者多し其知識ハ固く狭く  
 文字と知らば法律と知らば禮義の道なく地面  
 の區別あり斯く愚民の内おも矢張頭分のもの  
 ゆゑて大勢と支配しその取扱ひ甚く暴虐無

道

第二と蠻野といふ潭沱の民より一段上席か  
 り支那の北方鞏鞏荒大野又ハ北阿非利加の土  
 民等あまも此種類の民ハ住居の家なく天幕  
 と張て雨露と凌ぎ或ハ家と作りとも甚と  
 粗末なり水草の便利のためハ其天幕又ハ家  
 作と携へて處と移るためなりその食物ハ牛羊  
 の肉と喰ひ其乳汁と飲之稍農業の道と心得て  
 五穀を喰ふ者も蠻野の國ハ文字もなしと

もみきと讀み書きを以て者ハ甚と稀なり藝術  
 小至してハ最も拙くして道具仕掛の工夫を知  
 らざ此人民と支配するものハむとせざるも  
 て家筋の人を以て下々の者ハ此の人を親介と  
 君父として恭ひ尊びその法甚と不人情あり  
 て暴一  
 第三と未開又ハ半開といふいさざ真の文明開  
 化ハ至らざりてかゝる開けかゝるたもの  
 ありども蠻野も較るバ遙々上等なり農業の道

世界各國の進歩

よく行届て食物多く藝術も進て次第小巧子趣  
き都會と開き家居と飾り文字學問の道も隨介  
盛かを但一嫉妬の心深くして他國の人を忌  
嫌ひ婦女子と輕蔑し弱き者と苦しむる風あり  
支那土留古邊留社等の諸國ハあつて開けしり  
ものといふが  
第四と文明開化といふ禮義と重んず正理と貴  
び人情穩かして風俗やさしく諸職の術ハ日小  
新かして學問の道ハ月小進る農業と勤め工作

と勵む百般の技藝盡さるるものなり國民業と  
安んじて天の幸を受け未頼母しく自から満足  
せし亞米利加合衆國英吉利佛蘭西日耳曼和蘭  
瑞西等の諸國ハ文明開化の域ハ至るものなり  
いふが  
世界中ハ帝國あり王國あり公國あり侯國あり  
或ハ共和政治の國あり帝國とハ帝の支配あり  
國あり魯西亞、澳地利、佛蘭西の如きあり  
國王あり王の支配あり國あり英吉利、普魯士、西班

世界各國の進歩

牙和蘭の如きあまを公侯の國もあまを同  
 共和政治の國とハ主君なく國中の人の申合せ  
 ありて治むる國かを南北亞米利加洲の諸國瑞西  
 理邊利屋の如きあまを  
 國中の支配取締の便と謀を其地面と州かから  
 郡々から縣々分てをその名目ハ國々あて同ト  
 からざもども事實ハ於て相異なりあまを  
 人民の多く集て家を建て市町を開き一處と  
 都會といふ亞米利加合衆國あて大都會と唱ふ



合衆國の  
 都會あり  
 とるやい  
 んまの景  
 の模様は由てあまを定るものなり  
 首府ミヤコ或ハ唯都トコとハ一國の政府のあり場所とハ  
 ふわいんまハ合衆國の首府ありんどんハ  
 ち奥ハありよさくふハ  
 せむるひやがふとん  
 ちるちもふにりと  
 ちんま等あを都會の  
 場所と撰ぶハ商賣の  
 便利と謀を産物運送等

世界各國書所録

英吉利の首府を

政府の体裁とハ其國と治むの法の立方を以て

其の種類三つを

第一と云ふは君主と云ふ立君の義を立君とハ

一人の君を立て其國を支配するありて

ハバ英吉利佛蘭西魯西亞其外の國々ハ皆立君

の國なり立君の政体と又二種あり一と定律

立君と云ふ國君一人にて政事を自由かせ國

内の議事院として評定所を開き國中一同の入札

おて人物を選び毎年その評定所を集めて法律

と定め定を設け一人の君として國の定とハ破

得ざる事かみりたるものなり譬は其國の君

不行状ありて奢を極め或ハ妄小師を起して國中

用金を以て以て付んとするも議事院の評議を

決して許さざれば都て君の威權ハ甚ど弱く國を

先おして君と後おとすの趣意を英吉利和蘭

西班牙等の如きあるを又一種の「もかき」と

獨裁立君と云ふ國小君と立との君一人の勝手

世界各國書所録

世田屋 金  
廿見 同 金  
廿見 同 金

次第ついでおて政事まつごとと捌はかき國民こくみんの生命いのちも君きみのものも  
をといひ上あさる人の意いお背そむけバ罪つみなり者ものをも  
殺ころすおとめ國民こくみんの家藏いけくらゐ身代みしろも君きみのものなりを  
といひ上あさる人の見み心こころ次第ついでおて妄あやまか年貢ねんきん運上うんじやう  
と取と立て或あるハ罪つみお陥おとし入いれて欠所かきところおまをさめと  
何事なにごとも一人ひとりの了簡りやうかんおて天下てんかと私こころをさるもの  
里魯西亞りろしや土留とど古支那こしな等の如ごとく其君若そのきみごとく賢明けんめいお  
る人物じんぶつおてよく心こころを用もちきバ國治こくちらさるおめと  
されども萬まん一無いちむ學がく又また盲もうおて自修じしゆお増長ぞうちやうさる

きハ民たみの難澁なんじやく一方ひとかたおるを暴君ばうきんといふ  
第二だいにの政体まつたいと貴族きぞく合議がうぎといふ家柄いへざとの貴たかき人々ひとびと  
寄集よしみおて政事まつごとと取扱とらひおものなりを  
第三だいにと共和政治こわうせいぢ或あるハ合衆政治がしゆせいぢといふ國中こくちゆうの人  
民たみ申合まをおて政事まつごとと捌はかくものなりを共和政治こわうせいぢの趣おも  
意いハ此の世よお生なまさる人ひとと同等どうてい同格どうかくのなりを  
定め其論そのろんお云いふ九こを人ひとたさるものハ各精かくせい心こころなりを  
身体ていしんの重責じゆうせき人ひととして此精このせい心こころと二通具につうぐふさふさ  
めど手足てしゆと八本持はつぽんぢおもめとて天然てんぜんお

上見 國 蓋 封 録

貴賤のわづらひにふかき一況して歴代の家柄の  
もと口實おしてたましく其人お才徳のまじり格別  
かきども若し然らざりて唯其位の人の上  
立ち心ハ賤くして我儔と違ふとさるれば下々  
の者ハひと一人お勝れさる才徳のまじりも暴人の  
下ハ恐入る百姓町人ハ汗と流して家業を營  
一錢づつ貯へる金ともかゝりぬ奪ふさし  
うゝ如くいつの間ハ取上らる上の人ハ我  
儔放盪おえ入るまじり盜かとも大いハ天理を戻さ

を畢竟世の中ハ政府を立るも國中ハ不正を  
事の行ハもさる人々の生命の危うらさる  
りふ其身代を失もさるる他國の侮を受けざ  
るより其取締をかゝ其守護を設るためハ役人  
ともありらへ武備とも整へ農工商をその人  
用と拂ふ訳あもバ警へバ下々の者ハ金を拂ふ  
て物を買ふが如く直段ハ成丈け安くして品柄  
ハ成丈け上物と選べさ苦なり然るも其代金を  
かを渡して品物とバまじりて請取らぬのまじり却



世界各國の金

て其金をたゞ奪ひし者のため痛らるるや  
のよとゆきてハ以ての外なり害りて益り  
はとを故に貴賤上下歴代家柄をせの  
止り人々其天然の心と勞し其天然の身と働  
一人の妨とあさざりて共々其身を守り其  
父母妻子と養ひ其家と治め其國と建て  
き命令と下すものなり趣意なり貢税と取立  
るものもよく天下太平國家安全と致し  
右の議論不擾もバ政府もよくて済むなり

なりども人の心の同トからざるハ其面体の各  
異なるが如し且天下の人萬人ハ万人皆善人  
もゆゑどもハ争論なり能く故に國中の  
人申合せハ札と以て人物を選び政事の頭取と  
立て評議の役人といひ付け在役の年限中ハ相  
當の給金を取らして政を為さしめ専ら國中  
同の便利と謀り外國へ對して侮を受けど國威  
と海外おきて耀々を趣意とせり亞米利加合  
衆國おてハ此頭取とぶとトてんとといふ在役

世界國畫附録

亞米利加合衆國議事院の圖



上席の者ハ六年交代下席の者ハ二年交代あり

世界國畫附録終

四年交代一年の給金二萬五千ドルあり  
其評議の役人ハ上席と下席と兩様あり

明治二年己巳八月  
官許

禁偽版

慶應義塾 藏版  
岡田屋嘉七 賣弘